

ユニットケアで個性尊重



やりがい聞いてみました

— 介護職員になったきっかけは。
中学生の時、母が介護職員になりました。別の業種で働

いていた頃と比べると楽しそう、さらには明るくなっている姿を見て、介護の仕事に興味を持ちました。そこで近くの特別養護老人ホーム（特養）の夏祭りにボランティアへ行き、やりがいのある仕事ができる場所だと感じたので、大垣桜高校の福祉科に進み、国家資格の介護福祉士を取得しました。高校卒業後は介護老人保健施設（老健）に就

職して10年間働き、5年ほど前から燦燦で働いています。ちなみに母は今も現役で働いていますし、3歳年下の弟も大垣桜高校福祉科、大学へと進み、現在は県内の別の法人で介護職員をしています。で、親子3人でこの業界にお世話になっています。
— 老健から燦燦に移った理由は。
老健は基本的に「家に帰って生活する」という目標があるため、一時的に滞在する施設ですし、リハビリなどの時間が多いです。利用者もとても深く関わりたいの思いか

ら、利用者それぞれに個室があり、その前にリビングスペースがあるというアットホームな雰囲気の中、個性や生活リズムを大切にできる「ユニットケア」をしている燦燦に移りました。
特養は、利用者にとって「こが「おうち」です。1つのユニットには10人の利用者がいて、5人の職員が交代で関わります。職員同士で話し合っ

す。新しく入った方だったり、経験者であっても従来型の特養で働いていた方だったりすると、ユニットケアとはどういうものかということから、うまく伝えていく必要があります。思いを伝えることは簡単なことではありません。指導法などをもっと学んでいく必要があると日々感じています。
— 施設の自慢できる点は。
新しいものをどんどん取り入れたり、働きやすさを改善していったりする雰囲気が良いと思います。少し前には、全てのベッドに「眠りSCAN（スキャン）」を導入しました。利用者がベッドを離れた際はアラームが鳴りますし、心拍や呼吸数などのデータが記録されるため、看護師らとの連携が取りやすくなりました。就寝中は部屋に入らないでほしいという方もいますので、気持ちに寄り添いつつ安全も確認できるようになり

職場のポイント

- 新しいこと、ものを積極的に導入
- 系列施設としっかり連携してケアに生かす



ユニットのリビングスペースで洗濯物をたたむ利用者を、笑顔で見守る＝岐阜市鏡島南、特別養護老人ホーム燦燦

利用者が「あなたにやってもらえて良かった」などと直接言ってもらえることが、やりがいにつながっています。また、利用者の状態が良くなると変化が目に見えるときもつれしく、それらの積み重ねが力になっていきます。高校時代から一貫して、介護そのものをやめたいと思っただことは一度もありません。自分が笑顔でいることで、利用者の笑顔も増えていきますので、これからも笑顔で頑張りたいですね。
大変だと思うことはユニットリーダーとして職員をまとめなければいけないことで

り良かったと感じています。病院をはじめ、系列の施設が多い点も良いです。その方に合った施設が選べ、連携も取りやすいので、この整った環境で利用者がその方らしい生活ができるよう、これからも支援していきたいですね。